

KEEP GOING

～見方考え方を働かせた
深い学びの実現～

6年生 国語科の実践「やまなし」

1. 単元目標

●文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

【知識及び技能(1)力】

●比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

【知識及び技能(1)ク】

●物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【思考力，判断力，表現力Cエ】

●言葉がもつよさに気付くとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力，人間性等】

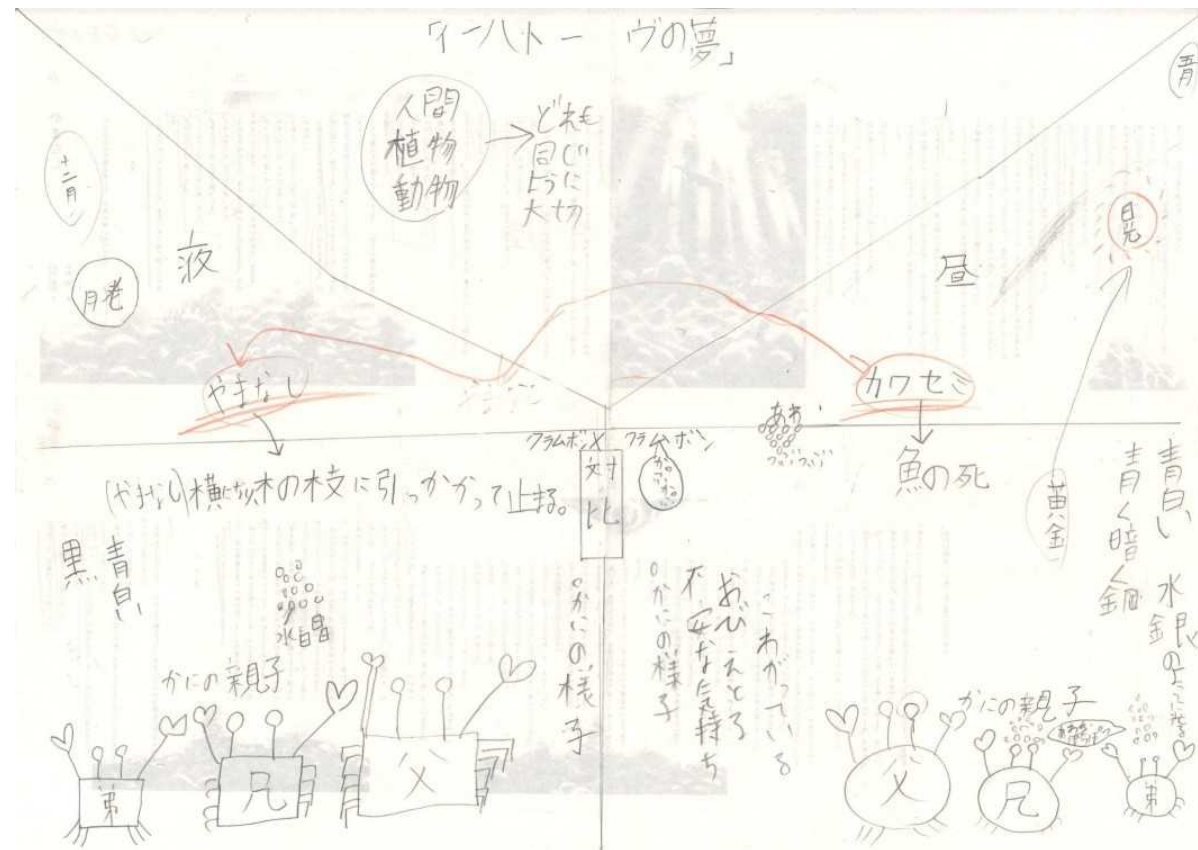
2. 実践の内容①「言葉に着目する」

(1) 全文シートの活用

- ・ 作品の特徴や、疑問を持ったところに線を引き、友達と見せ合いながら考えることができる。

(2) 全文シートのねらい・よさ

- ・紙でY字チャートをつくり、作品論と作家論を1枚の紙で関連付ける児童も。



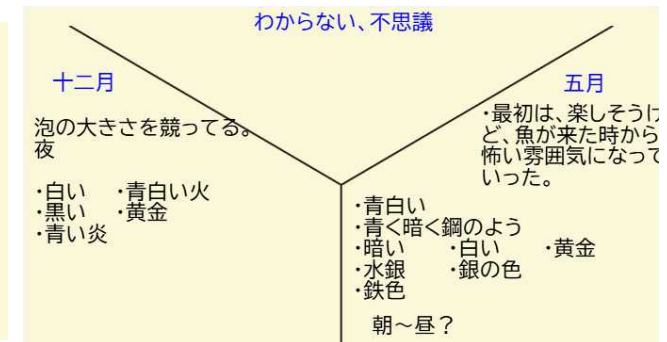
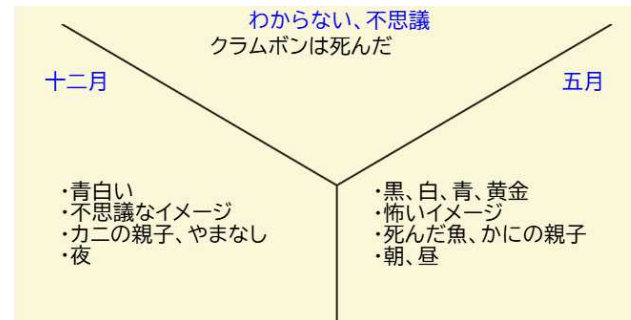
2. 実践の内容②「2つの場面の対比」

(1)ICT活用場面

- ・「五月」「十二月」で出てきた言葉を言葉の表現をYチャートで比較する。
- （比喩、オノマトペ、色彩語）
- ・観点ごとに比較し、「五月」「十二月」から感じたことや考えたことを書く。

(2)ICT活用のねらい・よさ

- ・ 2つの場面を比較しやすい。
- ・ 他者参照できることで、友達の考えを参考にできる。



受ける印象	上から来たもの	水や光の様子	かにの会話や様子	
恐怖 不安 こわい 不気味な感じ	かわせみの とがったくちばし	日光 黄金	笑った 死んだ 殺された こわいよ ぶるぶる震えている	五月
楽しみ 平和 わくわくしている	やまなし	月光 青白い	あわが大きいよ ぼくのほう、大きいよ いいにおい おいしそう	十二月

3. 児童の様子（成果物の一例）

◎児童の成果物の一例

「やまなし」「イーハトーヴの夢」
を関連させて読み、自分の考えをま
とめています。

僕は宮沢賢治についてこう思っています。

1つ目は、宮沢賢治は植物も動物も人間も同じだと思っています。

2つ目は、やまなしのいろいろな色や鉱石の表現は、小学校の時の一人遊びから来ていると思います。

3つ目は、「月光の虹がもかもか」の虹は、銀河鉄道の銀河のエネルギーだと思っています。

4つ目はパラレル地図の北上川は大切なものだったともいます。

なぜかという1つ目のことは、イーハトーヴのゆめにのっている、「3つ病院が建っている。1つ目は人間を治す病院2つ目は動物を治す病院3つ目は植物を治す病院の3つのそっくりな病院が3つ並んでいる」ということから、全部同じような扱いをされているのがわかります。

2つ目はイーハトーヴの夢にあったように、宮沢賢治は一人遊びとして石ころ集めをしていることから鉱石や色の表現があると思いました。

3つ目は、月光の虹がもかもかの虹は、まずやまなしの文章を見ると「明日イサドへ連れて行かんぞ」といったことからイサドの街が近いと思います。そしてパラレル地図を見ると銀河エネルギーを使っている鉄道がイサドの街近くにあることから虹や月光などの光が見やすいんじゃないかと思いました。

4つ目は北上川は大切なものだったんではということです。なぜかという、北上川はパラレル地図にもありますがイーハトーヴの夢を見ると、「北上川沿いの荒れ地を」とある。そのことから北上川は現実世界にあると思われれます。だからその岩手も夢のような所にパラレル地図にしたいところを書いたということは大切なところなんじゃないかと思いました。

僕はこの話を読む前は、正直言って、少し植物の扱いが雑だったかもしれないけど、この話を読んで植物も人間も動物も同じようなものだ気づいたので、これからはほくも植物も同じように大切にしていきたいと思いました。

4. 成果

- ・ Googleの汎用的なアプリケーションと既習のICTスキルを活用して、単元を通して児童が主体的に学びを進めることができた。
- ・ ICT活用により、場面の比較がしやすく、印象や特徴の違いを捉えることができた。
- ・ 記述や推敲の場面にICTを活用したことで、効率的に成果物を書くことができ、他者参照・交流も容易になった。

5. 課題

- ・ 物語文とその作者の生き方、他の作品を並行して読んで関連付けて読み取ることに、他者参照をしても困難を感じる児童もいた。
- ・ 自分の考えをまとめる経験を積み重ねることが必要。